

苗立確保のポイントと水管理（乾田直播）

POINT 1 基本 播種適期は乾籾4月27～5月3日、催芽籾5月5～11日

- (1) 播種後は速やかに入水（灌水）します。（播種後4日以内）
- (2) 再入水は土壌表面が白くなり乾燥してからです。
- (3) 24時間以上の水の停滞は、酸素不足を招き、催芽途中の種子を死滅させます。



① 初入水は速やかに。この水分は24時間後にはない状態がベスト。



② 表面が乾くことが大切。良好な発芽には酸素が必要。



③ 苗代の土壌の湿り具合と同じ状態をキープする。降雨量の多いときは、排水します。



④ この滞水状態を、24時間以上続けてはならない。



⑤ **Point 1**
均平が不十分、移植田に隣接した場合は溝を切り停滞水の除去に努めましょう。



⑥ **Point 2**
多雨又は停滞水が抜けない場合は、暗渠孔を開けるなどして、水の停滞を防ぎます。

靴の跡が付く。このように1度乾かす（酸素供給）ことが、良い苗立ちにつながる。



⑦ **Point 3**
出芽始には根の状態と土壌水分を確認。



⑧ **Point 4**
発芽始～1.5葉期までの深水や停滞水は、芽を死滅させます。

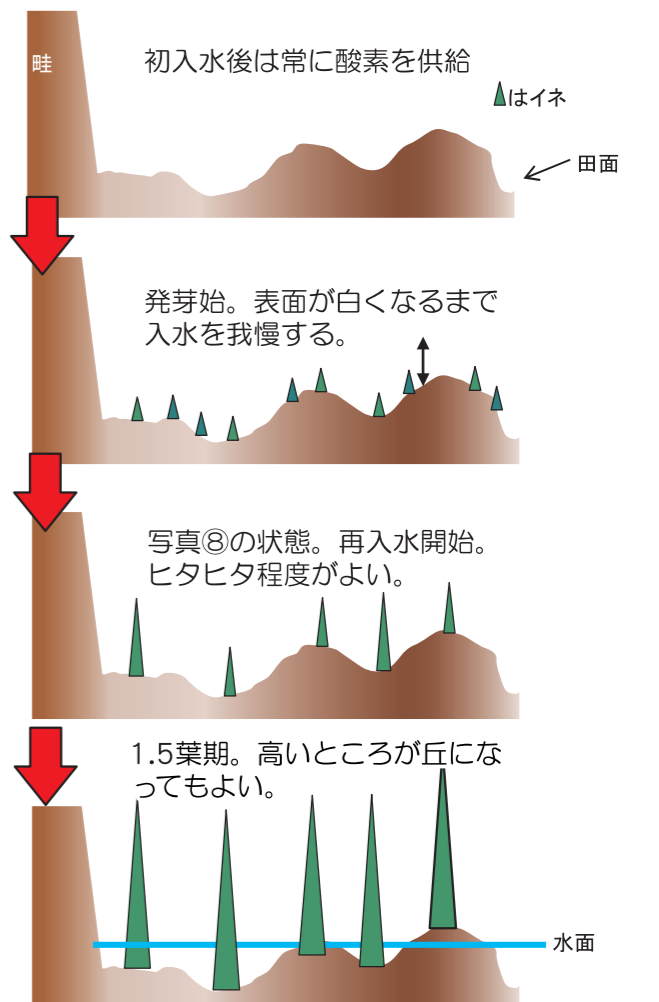


⑩ **Point 5**
再入水（2回目の入水）は一度は場の表面を乾かしてから行います。

気温上昇が予測される日の前日の夕方に入水開始！



⑪ 乾田直播の場合、H18～21年の4年間の苗立率の全体平均は50%弱。良い人でも60%程度です。このことから播種した種子の半分は、死滅すると考えた方が良いでしょう。



雑草対策 (発生過程に応じた薬剤処理)

POINT 1 直播栽培の雑草の課題

- (1) 苗立ち・初期生育が劣る場合は、一発処理剤が使用できません。(薬害のリスク)
- (2) ヒエの発生量と生育スピードが速く、手遅れ水田になりやすい傾向です。(散布時期の遅れ)
- (3) 落水期間が長期化した場合、畑の雑草(スズメノカタビラ等)も多発します。

Point

雑草の発生は水田によって異なります。草種と発生量に応じた除草剤の選択が、コスト低減につながります。



POINT 2 自ら発生予測を実施 (簡易予測法の手順)

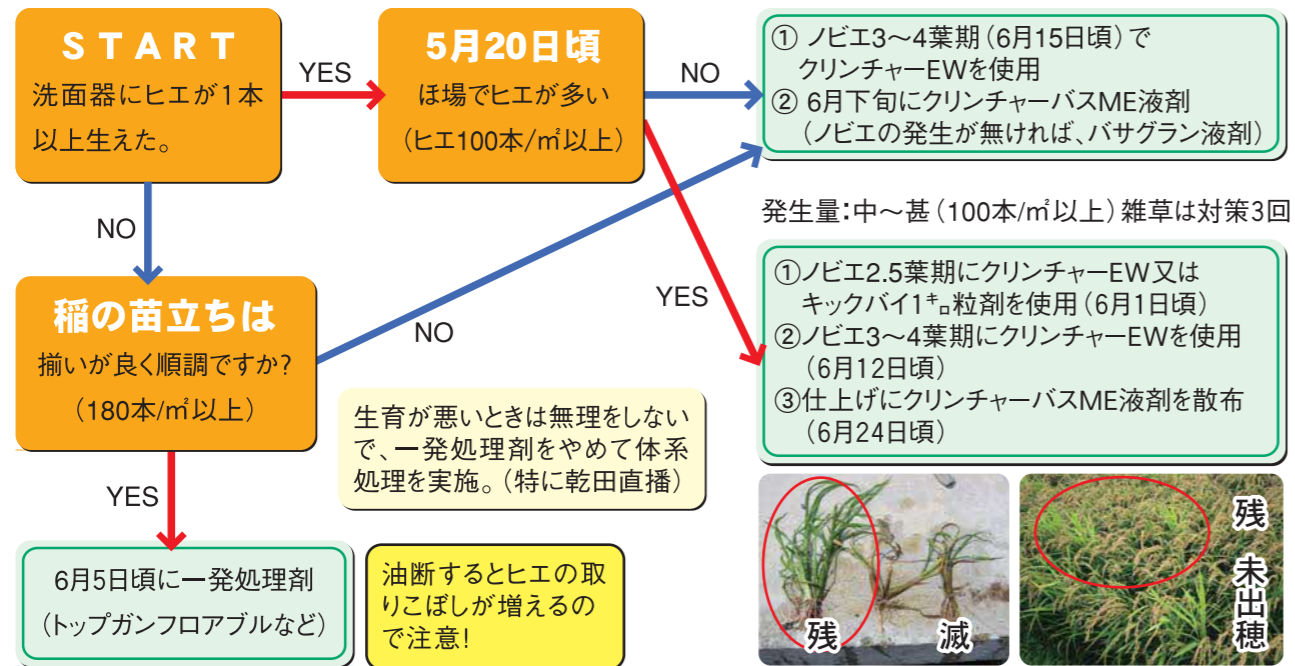
生育初期の雑草の判定は、大変難しいことです。この予測方法は、除草剤散布時期までに実物を、直に確認することができます。必ず実行してください。

- 洗面器 8 分目程度の土を水田 3～5 カ所から採取。
- 洗面器に手で代掻きをし、育苗ハウスに設置。
- 乾かないように、水を時折補給する。
- 約45日目から、草の形質がはっきりする。(判定)



POINT 3 発生予測方法から対策を立てる

ヒエを中心に対策を組み立てよう!



雑草対策の基本は、雑草の種子を落とさないことです。多量の種子を落とした(草を残してしまった)場合、その翌年は、移植栽培か畑作物に切り替えることにしましょう。

空走りの励行を!

自走式ブームスプレーヤーの走行を容易にするために、播種後に初入水したときに空走りで防除畝を決めましょう!水路にもなるので、水の駆け引きもしやすくなり便利です。(田植機でも可)



収穫までの栽培管理

POINT 1 基本

- (1) 基本的には移植と同様に、水管理、病害虫防除を行ってください。
- (2) 茎数が多く、葉色が濃い場合は、倒伏やいもち病の発生に注意が必要です。
- (3) 場合によっては出穂前に倒伏防止剤を散布しましょう!
- (4) 収穫の目安は出穂からの積算気温で約1,000度です。

POINT 2 収穫間近の注意点



なびきは特に問題はない。多収が期待できそう!



左は倒伏した。整粒歩合が8%程度低下した。



成熟に向かう様子。(イメージ)



この状態で「大地の星」は刈ってはいけない!枝梗が青い。



刈って良い状態。穂先の枝梗が枯れ始めるまで待とう。



穂揃い良好。このようになるには、苗立ち確保が大切。



苗立ちが悪い場合は、このようになる。追肥で穂数は確保できたが、穂揃いは悪い状態。